

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	エイド亀山		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援と放課後等デイサービスの多機能施設であること。未就学児の時から支援に携わることができ、保育所等と連携をとることができる。詳細な情報を正しく共有することが可能である。	3歳から18歳まで一貫した療育を提供し、未就学から就学への環境変化によるストレスを軽減し、長期的な支援に取り組んでいる。	子ども達、保護者様からの要望を踏まえ上で、活動の内容をより充実させていきます。また、現在、実施しているプログラムに関しても、ブラッシュアップを行うことで、より充実した内容に昇華させます。
2	4つの基本活動 1, 自立支援と日常生活の充実のための活動 2, 創作活動 3, 地域交流の機会の提供 4, 余暇の提供を全て含めた総合的な支援提供	クッキングや掃除など日常生活に直結する生活力をもちろんのこと、その他、各活動には「めあて」を設定して取り組んでいる。また、幅広い年齢層と一緒に生活している利点を活かして、各々の得手不得手を補いあえるようにしている。	5領域の視点に沿ってアセスメントを実施し、左記の4つの基本活動とご利用者様やご家族様のニーズを組み合わせながら、個別支援計画を作成するように取り組んでいます。
3	保護者様の交流の機会の提供、地域住民参加のイベント企画。	保護者様との繋がりや、保護者様同士の繋がりを大切にし、気軽に相談や意見交換ができるような関係性を作れるよう努めています。	事業所とご家庭が連携し、子供の成長を支える信頼関係を築く重要な場として考えています。日々の悩みや情報を保護者様同士・スタッフと交換することで、孤独感の解消や子育ての安心感を得られるような機会の提供に努めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子育てに関する相談・助言	保護者会・参観日・個別面談週間は実施させていただいているが、全ての方に参加していただいているわけではないので、テーマや内容の見直しが必要に感じる。	保護者様のニーズに沿ったテーマや企画を立案することが必要。
2	様々な子どもと一緒に生活していることで、子どもの同士の相性・お互いの特性により、ストレスとなっている場面がある。	子どもの特性・相性を十分に理解できていない。環境設定についてPDCAが十分に行われておらず、ストレスを増幅させている可能性がある。職員のスキル不足が1つの要因である。	場面による生活空間を分ける、クールダウンのスペースの活用など、物理的な環境設定をPDCAを通じて再構築していきます。また、研修、事例検討を通じて職員個人のスキルを向上させることで、よりよい支援を行えるようにしていきます。
3	災害非常時の対応の周知	施設内だけの訓練ではなく、災害非常時に保護者様がどのような行動をとればいいのか明確にしておく必要がある。	いくつかの災害パターンを想定し、訓練回数を増やす必要がある。定期的に避難所等の情報共有をし連絡が取れなくなった場合でも、落ち着いて行動ができるようにしておく必要がある。